

2年2組

 ぼくたち わたしたちの「藍」
 ～みんなに届けたい わたしたちの色～


誰かを想って 藍染めを！

「弟にも着させてあげたい」「今度は家族の分まで染めてみたい」。今まで藍染めをやってきて、自分以外の人へも自分たちの藍染めを届けたいという願いをもった子どもたち。残暑が残る中、みんなで作業してつくった藍の乾燥葉も藍染めするのに残り1回分。最後は1人5枚のハンカチを染めることにしました。この5枚を誰にあげようか…子どもたちは誰かを想って今回の藍染めに臨みました。

乾燥葉染め4回目の子どもたちは、火を使う作業も、火を見張る役、鍋を担当する役など自然に分担して、手際よくこなしていきます。途中、「先生藍染め T シャツを着てやりたい」といって着替えに行く人も。思わず今まで染めてきたものを身に纏って活動したくなる子どもたちでした。

何度も藍染めをやっているのに、子どもたちは布が藍色に変化していく様子に心を寄せていきます。Aさんは、「先生、今回はとっても濃くするんだ。だから何回も何回も液に入れるぞ」と今までにないくらい濃い藍色目指して作業していました。Bさんは、「これはお花みたいな感じの模様になったから、お母さんにあげるんだ」とできた模様とプレゼントしたい相手と重ね合わせて想いを膨らませていました。Cさんは、「濃い色と、薄い色の両方をつくったんだ。どっちの色がいいか聞いて選んでもらうようにしたの」と、これまでの経験を生かしながら、色の濃さを調整して様々な濃さのハンカチを作っていました。Dさんは、「プレゼントするから、美しく模様や色が出るようにしたい。喜んでくれるかドキドキする」と語っていて、今までと同じ藍染めなのに、渡したい相手がいるだけでまた違った気持ちで作業に取り組んでいるようでした。

この日の振り返りに、Eさんは次のように綴っていました。

先生が、「最後の藍染めだよ」と言った時、ぼくは、「がんばってくれたんだね藍」と思いました。最後の藍染めで2年2組37人に命を貸してくれた…先生の言葉を聞いた時、真っ先にそう思いました。藍が全身全霊をかけてくれたからきれいにそまってくれました。藍は僕たちの宝物、クラスの全員の宝物。

今年度のスタートには思い描いてもいなかった子どもたちの姿です。草木染めの材料として見ていた藍ですが、この1年のくらしを経て、ただの材料ではなく、自分たちのかけがえのない存在となった「藍」。この藍との活動を通じて、ものづくりの楽しさ、奥深さも学びましたが、その根底には、他の命をいただいていると感じている子どもたちがいました。国語の学習で「スーホが白馬を馬頭琴にした気持ちが分かったような気がしました」と振り返りに綴ったFさん。1つの命が、別のものに生まれ変わることを捉え直しているようでした。

染めたハンカチを、丁寧にアイロンがけする姿や、自分がデザインした袋に入れたり、メッセージカードを書いたりしながらラッピングする子どもたちの姿からも、「この自分の藍色を、早く届けたい。届けた相手に喜んでもらいたい」という想いが伝わってきます。



藍色を着て 歌いたい♪ ぼくたち わたしたちの歌

今年度「藍染め」するたびにつくってきたクラスの歌。音楽会で披露しようと考えていましたが、中止となってしまったため、せめて収録だけでも行いたいと思い実行しました。

当日は、今まで染めてきたTシャツや大きめのハンカチを頭や首に巻いたりして、全身藍色に染まった子どもたちが歌いました。収録は、分散登校明けであったため、「やっとみんなで歌える。うれしいな」と声が挙がります。歌詞には、今まで様々な藍染めをやってきて感じた楽しさ、面白さ、魅力が子どもたちの言葉でぎゅっと詰められています。



～たたきぞめの うた～

みんなで育てた あいのはを
せつせとあつめて 見てみたら
ずいぶん大きくなったもんだ
いよいよはじめる たたきぞめ
※トントントントントントント
トントントントントント

楽しい 楽しい たたきぞめ
きづちで たいたて みどりいろ
ジャブジャブジャブと あらったら
「わあ! あいいろだ!」
きれいな ハンカチ できました

みんなで 作った たたきぞめ
すこし うでが つかれたけれど
なんども チャレンジ したからか
うまく そまってくれました

～なまはぞめの うた～

ビー玉 わごおで くるくると たくさん
とめたら じゅんびは OK! あいのはっぱを
ミキサーで ガアガアギーと こなごなに
水といっしょにしてみたら だろだろあおじる
できました 「なんか くさいね」
「くさいくさい」 きれいにできるかな?

いよいよ ハンカチ しぼりぞめ うまく
そまるかな 青色の えきに ジャブジャブ
ぎゅうぎゅう グショグショ ギューギューと
しぼって色をつけたよ
もようは それぞれ さまざまちがうけど
たのしかったよ しぼりぞめ
水につけたら ぱあっと 色がかわったよ
空気に ふれたら あい色です

ぼくたち あいの いのちをもらって 色をつけ
ている おかげで きれいな しぼりぞめ
できたよ ありがとうございます すごいな あいは
すごいな つぎは 何にしようかな?
だいせいこうだ!!

～かれはぞめの歌～

みんなで 作った かれはぞめ
楽しく なかよく 1組と
ワクワク ドキドキ ふしぎだな
どうしてこんな色? まるで空!

みんな同じなのに 濃かったり薄かったり
どっちの色も どんなんもようも
きれいだな
秋と冬だけの とくべつな
かれはぞめ 大切にするよ

色々あい色 楽しいな
煮ているときには 黄色のあわ
世界に一つだけの ぼくらのあいぞめ
ありがとう 命のパワー

あいの命を 手放さないように
わすれないよ 大事にするよ
あいは枯れてくけど 命はつながってる
ぼくらの宝物
ありがとう あい

子どもたちが使っていた昨年度染めたという草木染めのナフキン。そこから子どもたちと追究したいと始めた「藍染め」への道。本当に多くのことを学び、その魅力を味わえた1年でした。

Gさんは「藍染めを最後みんなでできて楽しかった。最初は濃くできなかつたけど、14回繰り返して染めたら濃くなりました。ママが『ジーンズみたいでかっこいいね』言ってくれました」と日記に綴っていて、お家の人に自分の願い通りの色に染まったハンカチを、褒めてもらえた喜びを伝えてくれました。Hさんは、「藍は人を喜ばせて、笑顔を作ってくれるパワーがあるんだ。藍のおかげで、お母さんの最高の笑顔が見られて幸せでした」と日記に綴り、「藍染め」が人とのつながりをより強めてくれたと感じているようでした。育てた藍を1つ残らず使い切り、その藍で染めたものを自分の大切にしたい人へ届け、今年度の活動は終了しました。

